

# 連載コラム

## みずき野と その周辺の 植物と昆虫

第 21 回

テントウムシの仲間



本吉總男

# みずき野とその周辺の植物と昆虫

## (21) テントウムシの仲間

2月に虫の話は少し早いと思いますが、3月になればひな祭りを過ぎて、やがて啓蟄（今年は3月5日）。冬ごもりの虫たちが地上に這い出でるとされています。春最初に出会う虫は？ テントウムシ、モンシロチョウ、それともミツバチか？ 2月はそんなことをも楽しみに、春の到来を待つ季節です。

今回は、テントウムシの仲間について述べることにします。英語では、テントウムシをレディバード (ladybird) またはレディーバグ (ladybug) とよびます。欧米人にもテントウムシは、着飾ったレディーのようなきれいな虫に見えるのでしょうか。

### (1) ナミテントウ



テントウムシの仲間でもっとも普通に見られるのはナミテントウです。ナミテントウは、以前は単にテントウムシとよばれていましたが、テントウムシは総称名としても使われますので、混乱を避けるため、現在はナミテントウとよばれることが多くなりました。

ナミテントウは、冬は木の皮や枯葉の下など、暖かい場所に集団で越冬しています。時には家の中に入り込んできます。1年に何回か繁殖を繰り返し、成虫は1年中見られます。ただし猛暑の季節は夏眠するので、この季節はあまり見られません。幼虫も成虫もアブラムシを食べますので、益虫とされています。

ナミテントウは個体により、上翅の色や斑紋の数や色が著しく違います。まるでそれぞれが別種のように見えますが、すべてが同じナミテントウです。一つの個体の型は両親の型の組み合わせによって、遺伝的に決められています。

ナミテントウはもともとアジア原産のテントウムシなのですが、近頃は欧米にも広がり、ハーレクイン・レディバード (harlequin ladybird) とよばれています。特にヨーロッパでは、この虫の移動や増殖が盛んで、在来種を駆逐してしまうのではないかと警戒されているようです。

ナミテントウのいろいろな型を写真で示します。



ナミテントウ  
4月下旬 第2調整池



ナミテントウ  
5月下旬 さくらんぼ公園バス停付近



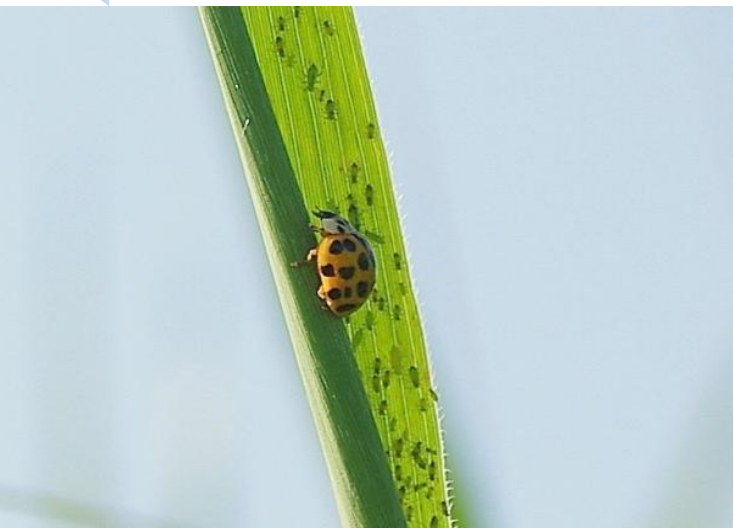
ナミテントウ  
5月下旬 さくらんぼ公園バス停付近



ナミテントウ  
6月上旬 本町地区



ナミテントウ  
6月下旬 本町地区



ナミテントウ  
6月下旬 本町地区

## (2) ナナホシテントウ

ナナホシテントウもナミテントウ同様、ごく普通に見られるテントウムシです。赤い地色に7つの黒い斑点をもち、ナミテントウのようなパターンの極端な違いは見られません。ただし、羽化したての成虫は黄色で無紋、成熟するに従い、7つの紋が現れ、地色が橙黄色から赤色に変わって行きます。ナミテントウと同様、冬は成虫のまま集団で越冬します。ナナホシテントウも、幼虫、成虫ともにアブラムシを食べる益虫です。

ナナホシテントウは、アジア、ヨーロッパに広く分布しています。英語ではセブンスポット・レディバード (seven-spot ladybird) と、日本語と似た名前が付けられています。



ナナホシテントウ 3月下旬  
第2調整池



ナナホシテントウ 5月下旬  
本町地区

## (3) ジュウサンホシテントウ

ジュウサンホシテントウは、橙黄色の地に13の黒い斑点をもつ楕円形のテントウムシです。通常アシの原に生息していて、アブラムシを食べていますが、写真の個体はシロバナサクラタデの花に止まっています。近所のアシの原から飛んできたものと思われます。

このテントウムシも北半球に広く分布していて、サーティーンスポット・レディバード (thirteen-spot ladybird) とよばれています。



ジュウサンホシテントウ  
10月上旬 本町地区

#### (4) みずき野周辺に見られる その他のテントウムシ

写真がなくて残念ですが、上記のテントウムシのほか、小型のヒメカメノコテントウもみずき野周辺に普通にいます。黄色または橙黄色の地に黒い不定形の斑点または模様をもつテントウムシで、幼虫、成虫ともアブラムシを食べます。

テントウムシの中には、ジャガイモやナスの葉を食べるニジュウヤホシテントウやオオニジュウヤホシテントウのような害虫もいます。つやのない黄褐色または赤褐色の地に28の黒色斑点をもつテントウムシです。2種のうち、ニジュウヤホシテントウは暖地性ですので、守谷で見られるのはオオニジュウヤホシテントウの方で

しょう。写真は撮っていませんが、よく見るテントウムシです。ただし、近頃は畑の管理が行き届いているせいか、数はたいへん少なくなったように思います。

### (5) テントウムシ余談

テントウムシを詠んだ俳句を3句。

翹わって  
てんたう虫の  
飛びいづる

高野素十

のぼりゆく  
草細りゆく  
天道虫

中村草田男

天道虫  
日へ飛べ  
死真似などやめて

中島斌雄

テントウムシは草の葉を登って行って、葉の先端まで行くと飛び立つ習性があります。草田男の句はその様子を彷彿させます。また、斌雄の句の通り、テントウムシは触ると地上に落ちてひっくり返り、脚を縮めて死真似をします。外敵は通常、動くものを攻撃します。死真似をして、じっとしていることは、外敵の眼をそらす効果があると云われています。また、テントウムシは体の関節から黄色い臭い汁を出します。これも外敵から身を護る手段と考えられます。



イギリスには、”Ladybird Ladybird”というナーサリーライム（伝承的な童謡）があります。幾つかのバージョンがありますが、そのうちの一つは、



Ladybird, ladybird fly away home,  
Your house is on fire and your children are gone,  
All except one,  
And her name is Ann,  
And she hid under the baking pan



北原白秋は、翻訳童謡集「まざあ・ぐうす」の中で、この童謡を次のように訳しています。

### てんとうむし



てんとうむし、てんとうむし、  
はよう家（うち）へかえれ、  
おまえの家（うち）ゃ火事だ。  
みんな子供がやけしんだ。  
おすめのアンヌがたったひとり、  
プッジングのなべの下に  
つんぐりむんぐりもぐった。

（プッジングはプディングのこと）

かなり残酷な内容ですが、All Nursery Rhymes (<http://allnurseryrhymes.com/>)というホームページの中の Ladybird のページには、この童謡について、「子供たちは、テントウムシが体に止まったときにこの歌を歌う。なぜなら、この虫が飛び去ると、願いがかなうと信じられているからである。また、テントウムシを殺すと不幸がもたらされるとも信じられている。したがってこの歌を歌って、テントウムシを家に帰らせようとする。この歌には、小さな虫を保護し、憎んだり殺したりしないことを諭す教育的な目的があるのかもしれない」と解説されています。

テントウムシの仲間とは縁のないハムシの仲間に、テントウムシによく似た虫がいます。テントウノミハムシ、ヘリグロテントウノミハムシ、ヒメテントウノミハムシなどです。そのうちテントウノミハムシとヘリグロテントウノミハムシは、黒地に赤い斑点を持ち、ナミテントウの一つの型にそっくりです。ただし、ナミテントウは体長7～8ミリですが、テントウノミハムシやヘリグロテントウノミハムシは体長3～3.5ミリ程度ですから、間違えることはありません。それでも、敵に襲われにくいテントウムシに擬態しているつもりかもしれません。危険を感じると、ノミのようにピョンと跳ねて逃げます。

ナミテントウやナナホシテントウは、アブラムシを食べる益虫ですが、テントウノミハムシの仲間はモクセイ科の植物の葉を食害する害虫です。



テントウノミハムシの一種  
7月上旬 7丁目

写真の個体は、我が家の垣根のヒイラギに来たもので、テントウノミハムシまたはヘリグロテントウノミハムシのどちらかです。両種は非常によく似ており、特定できませんでした。

